

ホームページへの掲載

7月24日掲載

岐阜県立東濃高等学校

学 校 長 亀山 弘

学校住所 可児郡御嵩町御嵩 2854-1
0574-67-2136 fax0574-67-6204

ホームページ <http://school.gifu-net.ed.jp/tono-hs/>

1 会議名 東濃高等学校運営協議会 (第1回)

2 開催日時 令和元年5月14日(火) 13:30~15:30

3 開催場所 東濃高等学校 会議室

4 参加者 委 員 寺本 公行 御嵩町副町長
各務 眞弓 可児市国際交流協会・フレビア事務局長
田中 妙子 会社経営・税理士
鍵谷 欣弘 東海化成工業(株)安全環境統括室長
池田 万里 東濃高等学校PTA副会長
佐々木 亜弥 東濃高等学校PTA書記
山口 早苗 東濃高等学校PTA会計

学 校 側 亀山 弘 校長
青井 俊久 教頭
溝下 肇 教頭
吉田 益穂 教務主任
片山 澄美 進路指導主事

- 5 会議の概要(協議事項) (1) 学校運営協議会の主旨説明、自己紹介
(2) 公開授業・授業参観
(3) 「令和元年度 教育指導の重点」「令和元年度 学校経営計画」の説明・審議(承認)
(4) 外国人生徒の状況・地域連携による活力ある高校づくり推進事業・演劇ワークショップ・キャリア教育プログラム・進路先一覧について説明
(5) 協議・意見交流

6 会議のまとめ

「学校運営協議会の設置運営について」について	学校長から：この会は「学校運営協議会の設置運営について」を受けて設置されたものである。本校は活性化を求められており、地元御嵩町の協力を得ながら様々な事業を実施している。今年度も委員の方々のご意見をいただき、軌道修正しながら教育活動を行っていきたいので、忌憚のないご意見を承りたい。また、本日や別の機会にも生徒の姿を見ていただきたい。
「令和元年度 教育指導の重点」「令和元年度学校経営計画」について	教頭より「令和元年度 教育指導の重点」「令和元年度学校経営計画」の説明を行い、質疑の後に承認された。（質疑は以下の通り）
質疑1 回答	部活動の実態を教えてください。 ——1年生は全員加入となっているが、活動の強制まではできない。昨年度はウェイトリフティング部やロボコン部などが目覚ましい成績を残した。他にもバレーボール部やバスケットボール部など、熱心に活動し成果を上げている部がある。
質疑2 回答	アルバイトの実態について教えてください。 ——生徒の経済状況などを考慮し、土日など休業日について届出制をとっている。
質疑3 回答	転退学者はどの学年に多いのかを教えてください。 ——1年生が一番多い。また、1年次は退学が多く、2～3年次は修得した単位を生かすため転学することが多い。転学先は私立の通信制がほとんどである。
質疑4	外国籍の生徒に対して、可児市国際交流協会フレビアとしては、日本人生徒との交流が望ましく、国際クラスに入らないように指導している。「支援慣れ」により、頼ることがあたりまえになってしまうようにしたいというのが意図である。東濃高校では、どのように国際クラスを作っているのか。
回答	——国際クラスの生徒の選考は、ポルトガル語・タガログ語・中国語を母語とする生徒を対象として、希望に加え面談を行い、日本語の能力も踏まえて決めている。国際クラスでは「日本語を教える」というビジョンをもっている。国際クラスの生徒の中には2年次から普通クラスに入る生徒もいる。 なお、国際クラスの設置は岐阜県の政策であり、英語力を高めるために日本人を国際クラスに入れるなど、その在り方は本校の実情を踏まえて検討し改良をしていくことが必要だと考える。

質疑5	「働き方改革」により、学校ですべきことが省かれてしまわないか。本校での取り組みを教えてください。
回答	——「家庭に早く帰る日」の実施、業務の精選、負荷の分散化などに取組んでいるが、勤務時間外の勤務が増える主要因は「部活動指導」である。その在り方は今後も検討課題である。
質疑6	ボランティアを学校を通じて応募したいが、どうか。ボランティア活動は、企業とのマッチング・地元就職へもつながることが期待できる。
回答	——可能である。声掛けなど協力していきたい。（ボランティア活動による増単も検討する。）
外国人生徒の状況・地域連携による活力ある高校づくり推進事業・演劇ワークショップ・キャリア教育プログラム・進路先一覧について	その他、各事業について担当者からの説明を行い、各委員からの意見をいただいた。
意見1：	地域づくり類型の授業など、生徒が生き生きと活動している。また、2月の「環境フェア」での発表もよい活動だが、見る側が少ないのが残念である。さらに大きな施設で行えると、生徒のためにもなり、アピールにもなる。
意見2	校外研修の行き先について、2年生は東山動植物園が選ばれたのはなぜか。リトルワールドならば外国人生徒がもっと生かせるのではないか。
回答	——「クラスの和」を高めることを目標とし、行き先を選んでいるが、今後さらに検討を重ねたい。岐阜県からは「県有施設を」という指導もあり、花フェスタ記念公園・各務原航空博物館・兼山郷土歴史館なども候補として考えられる。
意見3	授業を見ると、教員と生徒の距離が近く感じられ、大人しい生徒にも良い影響があると思われる。
意見4	少人数の授業形態により、教員の目が行き届くし、生徒も個人的に質問をしやすい雰囲気である。

意見5	キャリア教育に協力する企業の立場としてミッションを考えるのは大変だが生徒のために頑張りたい。今年度の地域づくり類型の授業の工場見学の際、発表はもっと大きな声でできるとよい。
意見6	「類型」「ワークショップ」「少人数」など最先端の教育が行われていると感じる。黒板がホワイトボードに代わってどのような授業になるか楽しみである。
意見7	授業では落ち着きが見られ、また楽しく授業に臨んでいる。友人と楽しく過ごすのは高校生活の基本であり、いい顔で通っているのが一番である。
意見8	生徒は素直でフレンドリーである。授業をもっと見てみたい。
岐阜県教育委員会担当者	地元に生徒が帰ってくる（根付く）ように、「地元にいると実感できる取組」を今後も実施してほしい。
学校長挨拶	今後も機会があれば、学校を見に来ていただきたい。また、ご意見をいただきたい。